令 和 ４ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立秩父農工科学高等学校 定時制課程 ）

目 指 す 学 校 像	・生徒に社会でたくましく生きていくための力を身につけさせる学校 ・地域の要望に応える学校

重　点　目　標	１　「わかる授業」への取組による基礎学力向上 ２　自主性と自律心育成による、進学・就業の進路実現 ３　地域に信頼される学校づくり

※重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	７名
	生徒	３名
	事務局（教職員）	１２名

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年 度 評 価 （ ２ 月 ６ 日 現 在 ）			実施日　令和５年２月７日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 少人数ではあるが基礎学力の身についていない生徒や多様な生徒などが在籍している。 【課題】 幅広い学力層に対応し学び直しによる基礎学力向上に向けた「わかる授業」を効果的に行う学習指導が必要である。	基礎学力向上に向けた生徒個々への学習指導と支援	①学習指導内容、ICT 活用などの授業教材や授業評価の工夫などによる基礎学力向上に向けた指導改善への取組 ②「わかる授業」に向けた確認小テストや定期考査前補習、個別指導などの取組。 ③授業公開週間での教員間の学び合いの取組。 ④学習サポーター活用によりきめ細かな学習指導による学力向上。	①生徒個々の学習意欲や理解状況を把握するための授業アンケートで理解できた生徒が向上したか。 ②成績不振者数と成績優良者率の増大。 ③全教員が互いの授業参観による学び合いに取り組めたか。 ④１年数学授業「基礎学力の定着度を測定するﾃｽﾄ」での点数改善。	ICT 活用や個別指導等の工夫により「わかる」授業に向けた学習指導に取り組んだ。 ①ｱﾝｹｰﾄ結果で授業意欲948%、満足度88%という高い結果を示したが、理解度７割程度から９割以上と回答したのは 69%であった。 ②欠点科目所持者３名（１学期のみ）。1・2学期優良者率は47%（前年比+16%）と増加。 ③6月・11月に授業公開週間、9月の授業公開は一般関係者へも公開し、高評価を得た。個々教員のﾚﾍﾞﾙで学び合いに取り組んだ。 ④年度途中より学習ｻﾎﾟｰﾀｰを増員し、きめ細かな指導に取り組んだ。定着度ﾃｽﾄでは全生徒が学力ｱｯﾌﾟという結果が出た。	B	工夫した授業への取組により意欲・満足度は高い割合であったが、理解度が 5 割 3 割程度、と低めの回答をした生徒が31%であった。少人数授業を活かして、個々の生徒に寄り添った指導をさらに取り組む必要がある。一人一人に対応した基礎学力向上に向けて授業や補習など、一層きめ細かく取り組んでいく。	・少人数であることを活かして、きめ細かく指導されており生徒の成績も伸びている。先生方の手厚い指導に感謝する。 ・中学時代不登校であった生徒たちも定時制の環境で活き活き活動する生徒が出ており地域に必要な学校であると思う。 ・保護者ｱﾝｹｰﾄ結果で「お子様は、学校の授業内容を理解できている」という問いに 100%の保護者が「そう思う」と回答しており素晴らしい。保護者が学校での学習や指導に関して信頼している表れの一つだと思う。
2	【現状】 基本的生活習慣が身についておらず欠席・遅刻が多く、卒業後の進路を具体的に描けないでいる。 【課題】 社会のルールやマナーを理解させ、自主性や自律心を育み、個々に応じた進路意識の啓発を行い進路実現に向けた支援を行う必要がある。	基本的生活習慣と規範意識の確立	①欠席・遅刻生徒について教職員間で情報共有し、Google Classroom 等も活用し日々の健康観察を含めて組織的な指導を行う。 ②困り感のある生徒や保護者との教育相談体制を継続させ、スクールカウンセラーと密接に連携した指導や支援を行う。	①出席率が向上し遅刻率が減少したか。生徒の日々の健康観察を実施・集約できたか。 ②困り感のある生徒等が教育相談やスクールカウンセラーを利用して生活習慣などが改善されたか。	生徒情報を共有しながら指導に取り組んだ。 ①出席率 94%（5%UP）、遅刻率 3%（6%減少）。校務支援ｼｽﾃﾑを有効活用し出席等の管理や指導、健康観察を実施。家庭ときめ細かく連絡を取り合い生活習慣が改善方向にある。 ②ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ、ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰと密接に連携し生徒・保護者との面談等により支援した。今後に向け改善されてる生徒もいる。粘り強く教育相談等進めることができた。	A	生徒が多様化しているなか個々の生徒に対応した指導を、保護者や外部機関とも密接に連携し、基本的な生活習慣を身につけさせる指導を繰り返し取り組んでいく必要がある。 4 年間を見通したｷｬﾘｱ形成教育に向け、事業主連絡会や就職支援ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰと連携した指導、進路指導部や担任を中心とした指導体制などにより生徒の進路決定100%に向けて取り組んでいく。	・Google Classroom を活用した取り組みや先生方の指導などにより出席率や遅刻率が改善されている。ICT 化が進む社会情勢に対応した取組を学校でもさらに進めてほしい。 ・定時制ならではの個別に近い教育指導体制の現状は素晴らしい。定時制で 4 年間学び正社員として就職している実績は評価できる。 ・生徒の進路決定時に相談相手である保護者や教員の影響は強い。地域を支える人材育成として保護者や教員も地域企業と一層連携していくことは重要である。進路ｶﾞｲﾀﾞﾝｽとしてETAの事業主と連携した取組は、採用担当者等とは違うﾚﾍﾞﾙで生徒へｱﾄﾞﾊﾞｲｽできるので継続してほしい。
		生徒個々に応じた進路指導と進路実現	①総合的な探究活動や進路ガイダンス、キャリア・パスポート活用等、進路意識が高揚したか。4 年生へ希望先に応じた進路指導ができたか。 ②校内での指導に加えて、地域教育力を活用したガイダンスや面接指導を行う。	①4 年間を見通した進路活動、ｷｬﾘｱ・ﾊﾟｽﾎﾟｰﾄ活用等、進路意識が高揚したか。4 年生へ希望先に応じた進路指導ができたか。 ②就職支援アドバイザーや事業主連絡会を活用したか、就職内定率や進路実現率が 100%であったか。	生徒の進路決定に向け積極的に取り組んだ。 ①1～3 年と 4 年の目的別進路ｶﾞｲﾀﾞﾝｽや卒業生進路講演会、職業適性検査など進路意識を高め、就職活動に繋げる指導をした。 ②就職支援ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰによる面接練習や事業主によるｶﾞｲﾀﾞﾝｽなど外部人材を積極的に活用した。就職希望者34名、正社員としての内定率 100%である。	B		
3	【現状】 定時制の特色や取組の周知が不十分である。一方で定時制を支援する会・事業主連絡会という地域応援団の組織的支援をいただいている。 【課題】 情報発信を積極的に継続して行い、関係機関や全日制との連携を強化し、地域に信頼される学校を推進する必要がある。	学校情報の発信	①定時制ＨＰの更新回数を増やし教育活動や定時制の様子を発信する。 ②定時制を支援する会会報を活用し広く学校情報の発信を行う。	①学校行事ごとにＨＰへ掲載し、更新回数アクセス数が増加したか。 ②定時制を支援する会が発行する会報を広く発信できたか。	①HP 定時制日誌を行事ごとに発信し更新回数 90 回（昨年度比 1.6 倍）、ｱｸｾｽ数も月平均 500 回以上ｶｳﾝﾀｰの伸びを示した。 ②会報３回発行、HP にも掲載し広く発信した。	A	保護者ｱﾝｹｰﾄでは HP 閲覧率は上がった。HPの内容工夫や、教職員による更新回数をさらに上げ最新情報の地域への提供を継続する。支援する会会報も、在校生を含めさらに興味深い内容となるよう一層連携を深める。生徒募集、定時制活動内容の地域への周知も、全日制や他高校と連携しながら、学び直しできる学校として一層の情報発信により周知に取り組む。	・学習内容や卒業後の進路など明確化させ中学生が見やすいﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、学校行事の紹介や生徒が楽しんでいる様子の紹介などにより在校生が見たくなるﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞづくりを推進して日々発信することで一層ＰＲできるのではないか。 ・地域の方は、高校の様子を知ることができない。学校生活の様子を積極的に発信して知らせてほしい。 ・定時制という少人数の環境だからこそ卒業できた生徒もいる。ｱﾝｹｰﾄ結果でも特に 4 年生の満足度や入学して良かったと回答した生徒・保護者は 100%である。地域唯一の定時制は必要な高校である。
		定時制の教育活動に対する理解度の向上	①関係機関（事業主連絡会・定時制を支援する会）や全日制と連携した取組を行う。 ②定時制の特色や学習内容を理解してもらうため、学校説明会や授業・施設見学の随時受け入れを積極的に発信する。	①公開授業、文化祭等の行事で関係機関と連携を深め、生徒のためになる事業を計画的に実施できたか。 ②秩父４高校の生徒募集等の連携、随時受入の学校説明への参加者の受入数や志願者数が増加したか。	①文化祭一般公開は中止だったが、公開授業は来校していただき、意見交換により今後も引き続き支援してもらえる事を確認する。 ②4高校と連携した相談会と説明会、本校全日制とも合同進学相談会を２回開催。募集活動として中学生から相談を受ける機会を増やした。中学校に通えていない生徒が変わることのできる環境が定時制にはある、ということを個別に発信し、志願者も微増の見込みである。	B		